

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コース特別講義  
「人事管理から見た管理職の役割」を開催しました。

岐阜大学教職大学院学校管理職養成コースでは、岐阜県教育委員会から派遣される現職教員を対象に、学校経営専門職のための大学院教育を行っています。その一環として、教育行政のプロをお招きし、特別講義を行っています。今回は、令和5年11月27日（月）に、「教育政策の理論と実践」の1コマとして、岐阜県教育委員会高校教育課長の中村有希氏から「人事管理の面から見た管理職の役割」をテーマにご講義いただきました。

中村氏は、文部科学省から岐阜県教育委員会に出向され、3年目です。毎年、高度な見識をもとに、管理職の役割を、行政学、経営学、教育学、心理学を統合し、わかりやすくお話ししてくださいます。今回も、校長と教頭の職務の違い、教育者と公務員の2側面の立ち位置を確認した上で、人事管理として、不祥事防止の「マイナスからゼロ」と学校教育充実の「ゼロからプラス」の視点、何を根拠として判断するのか、どのように教職員に説明するか等、院生と対話しながら解説していただきました。そして、最後に、全国的な教育課題である「不登校への対応」について問題提起もされました。





受講した院生からは、「管理職としての心構えだけでなく、私自身の心の中に新たな希望と夢も与えてくださいました」、「“大人への教育”も“子どもへの教育”と同じではないか、職員一人一人の資質・能力を伸ばし、心理的安全性を担保した職場づくりを実現していきたいと思いました」「同じ仕事内容でも“やりがいを感じる”というプラスの思考を生み出せる管理職の関わりこそ、働き方を改善する大切な鍵であると思いました」等の感想がありました。受講した院生が、教育政策における人事管理の面から見た管理職の役割について考え、認識を深めることができ、とても有意義な講義となりました。